

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0018-3)  
GeneAll Ribospin™ vRD II:バッファーRBW

初回作成日:2025年11月4日  
前回改訂日:一年一月一日  
最新改訂日:一年一月一日  
版番号:第1版

1. 化学品及び会社情報

1.1 化学品の名称

製品名	GeneAll Ribospin™ vRD II
製品番号	GA322-108 (Mini 8 回用) GA322-150 (Mini 50 回用) GA322-103 (Mini 300 回用)
バッファー名	バッファーRBW (濃縮) Buffer RBW

1.2 化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	試験研究用実験試薬
使用上の制限	専門ユーザー向け

1.3 提供者の詳細

製造元の会社情報	GENEALL BIOTECHNOLOGY CO., LTD GeneAll Bldg., 303-7, Dongnam-ro, Songpa-gu, Seoul, 05729, Korea
供給者の会社情報	日本ジェネティクス株式会社 〒112-0004 東京都文京区後楽 1 丁目 4 番 14 号 後楽森ビル 18 階 電話番号:03-3813-0961 ファックス番号:03-3813-0962
供給者の緊急時連絡先	電話番号:03-3813-0961 (祝祭日を除く、月曜日から金曜日の午前 9 時から午後 5 時 30 分) E メール:info@genetics-n.co.jp

2. 危険有害性の要約

2.1 化学品の GHS 分類

危険有害性項目	危険有害性区分/細区分
物理化学的危険性	GHS 分類基準に該当しない。
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分:4
皮膚腐食性/刺激性	区分:2
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	区分:2
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分:3(気道刺激性)
環境に対する有害性	GHS 分類基準に該当しない。

2.2 GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル	 GHS07
注意喚起語	警告

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0018-3)**  
**GeneAll Ribospin™ vRD II: バッファーRBW**

危険有害性情報	
物理的危険性	物理的危険性のある物質又は混合物ではない。
健康有害性	H302: 飲み込むと有害
	H315: 皮膚刺激
	H319: 強い眼刺激
	H335: 呼吸器への刺激のおそれ
環境有害性	環境有害性のある物質又は混合物ではない。
注意書き	
安全対策	P261: 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
	P264: 取扱後は、皮膚/手をよく洗うこと。
	P270: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
	P271: 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
	P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急措置	P301+P312: 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
	P302+P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
	P304+P340: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	P312: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
	P330: 口をすすぐこと。
	P332+P313: 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
	P337+P313: 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。
	P362+P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
保管	P403+P233: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
	P405: 施錠して保管すること。
廃棄	P501: 内容物/容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに業務を委託して処理すること。

**2.3 GHS 分類に該当しない、又は GHS で扱われない他の危険有害性**

NFPA の表示システム(0-4)	H(健康危険性):-、F(燃焼危険性):-、R(反応危険性):-、特定の危険:-
HMIS の表示システム(0-4)	健康障害の危険:-、火災の危険:-、反応性:-、特定の危険:-

**3. 組成及び成分情報**

**3.1 化学物質・混合物の区別**

単一製品・混合物の区別	混合物
-------------	-----

**3.2 化学名又は一般名**

	化学名又は一般名	CAS 番号	濃度又は濃度範囲
①	グアニジン塩酸塩(塩化グアニジニウム) Guanidine Hydrochloride (Guanidinium Chloride)	50-01-1	70~80%
注意	本製品に含まれる成分のうち、組成や濃度が営業秘密に該当するものについては、関連法規に基づき、成分名を非公開、濃度を非公開もしくは幅記載としています。また、製品仕様上、濃度にばらつきがある場合は、幅記載としています。SDS に記載がなくとも、危険有害性を有さない成分、法令により開示義務のない濃度未満の成分が含まれている可能性があります。		

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0018-3)  
GeneAll Ribospin™ vRD II: バッファーRBW

4. 応急措置

4.1 応急措置

一般的アドバイス	必要な措置をとるために、この SDS を担当医に見せること。
ばく露経路ごとの応急処置	
吸入した場合	粉塵や煙を大量に吸入した場合は、清浄な空気のある場所に移動させること。 咳などの症状が出た場合は、医師の診察/手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	直ちに皮膚を水で少なくとも 20 分間洗い流すこと。 皮膚刺激が生じた場合は、医師の診察/手当てを受けること。 汚染された衣服は脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	直ちに眼を水で少なくとも 15 分間注意深く洗い流すこと。コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。 眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪くなった場合は、医師の診察/手当てを受けること。 人工呼吸を行わないこと。 適切な呼吸用医療機器を使用すること。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

症状	情報なし
----	------

4.3 その他の情報

医師に対する特別な注意事項	情報なし
---------------	------

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤	粉末消火剤、乾燥砂または土
不適切な消火剤	情報なし

5.2 火災時特有の危険有害性

危険有害性	情報なし
有害燃焼副産物	情報なし

5.3 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火を行う者の保護	適切な保護具を着用すること。
予防措置	火災区域から安全な距離を保って消火すること。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

注意事項	粉塵/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。 項目 6.3 を参照して、こぼれた液体を直ちに清掃すること。 避けるべき物質と条件に注意すること。
保護具	項目 8 で推奨されている個人用保護具を着用すること。
緊急時措置	安全が確保できる場合、さらなる漏洩や流出を防止すること。

6.2 環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	漏出物や流出水が、水路、下水道、排水路、閉鎖された区域に拡散されるのを防ぐこと。
------------	--

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0018-3)  
GeneAll Ribospin™ vRD II: バッファーRBW

6.3 封じ込め及び浄化の方法・機材

封じ込め及び浄化の方法・機材	不活性吸収材で吸収し、化学廃棄物用の容器に入れること。
----------------	-----------------------------

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

安全取扱注意事項	本品使用中は、飲食・喫煙をしないこと。
	空容器に製品が残っている場合、危険を伴う可能性があるため注意して取り扱うこと。
	安全データシート(SDS)および製品ラベルに記載されているすべての注意事項を遵守すること。
	取扱い及び保管に注意すること。
	容器を開封するには十分注意すること。

7.2 保管

安全な保管条件	容器を密閉し、風通しの良い場所に保管すること。
---------	-------------------------

7.3 その他の情報：特定の最終用途は、項目 1.2 を参照すること

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理指標

ばく露限界(日本産業衛生学会)	データなし
ACGIH ばく露限界	データなし
生物学的ばく露規制(BEI)	データなし

8.2 設備対策

ばく露を軽減するための設備対策	プロセスエンクロージャーや局所排気換気装置を設置したり、空气中濃度をばく露限界以下に維持したりすることで、適切な工学的管理措置を実施すること。
	作業場所の近くに緊急用洗眼器及び安全シャワーを設置すること。

8.3 保護具

呼吸用保護具	適切な政府基準に基づき試験・承認された呼吸用保護具を着用すること。
	ばく露される物質の物理的・化学的特性に応じて選択すること。
手の保護具	適切な政府基準に基づき試験・承認された手袋を着用すること。
	使用前に手袋を点検すること。
	使用後は関連規制及び GLP 基準に従い手袋を廃棄すること。
	手を洗い、乾燥させること。
眼及び/又は顔面の保護具	適切な政府基準に基づき試験・承認された耐薬品性の眼・顔面保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な耐薬品性保護衣を着用すること。
	作業区域内の物質の濃度と量に応じて選択すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態(外観/形状)	液体
色	無色
臭い	データなし
臭いの閾値	データなし
融点/凝固点(軟化温度/範囲)	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0018-3)  
GeneAll Ribospin™ vRD II: バッファーRBW

可燃性(液体)	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限值	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	7.0~8.0
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
粘度	データなし
分子量	データなし

### 10. 安定性及び反応性

反応性	指示に従って使用及び保管した場合には反応しない。
化学的安定性	指示に従って使用及び保管した場合には化学的に安定している。
危険有害反応の可能性	指示に従って保存及び使用した場合での危険有害反応は知られていない。
避けるべき条件	熱、火花、還元剤
混触危険物質	強酸化剤、強塩基、強酸、金属
危険有害な分解生成物	火災で燃焼し、熱分解又は燃焼により刺激性及び有毒なガスを放出する可能性がある。

### 11. 有害性情報

#### 11.1 有害性情報

##### 11.1.1 バッファーRBW (濃縮)

危険有害性項目	内容
急性毒性	(経口)飲み込むと有害 (経皮)データなし (吸入)データなし
皮膚腐食性/皮膚刺激性	皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	強い眼刺激
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	呼吸器系に刺激を与える。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
誤嚥有害性(吸引性呼吸器有害性)	データなし
その他	データなし

##### 11.1.2 グアニジン塩酸塩

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
急性毒性(経口)	区分 4	ラット LD50 値 1120mg/kg、908mg/kg(推)、774mg/kg(雌)(IUCRID (2000))が全て区分 4 に該当している。

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0018-3)**  
**GeneAll Ribospin™ vRD II: バッファーRBW**

急性毒性(経皮)	区分外	ウサギの LD50 値が >2000 mg/kg(IUCLID(2000))により区分外とした。
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外	GHS の定義における固体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない	データなし。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分外	ラットの LC50 値が 5.319 mg/L(IUCLID 2000)より、区分外とした。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分 2	ウサギを用いた試験(EPA ガイドライン)により「強い刺激性(highly irritating)」を示し(IUCLID(2000))、さらに EU 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A	ウサギを用いた試験(EPA ガイドライン)において、刺激性(irritating)を示し(IUCLID(2000))、さらに EU 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2A とした。
呼吸器感受性	分類できない	データなし。
皮膚感受性	分類できない	モルモットを用いた皮膚感受性試験(Buehler Test)(EPA ガイドライン)において感受性なしの記載(not sensitizing)(IUCLID(2000))があるが、List 2 のデータであるため分類できないとした。
生殖細胞変異原性	分類できない	in vivo 変異原性試験のデータがなく分類できない。なお、エームス試験(in vitro 変異原性試験)では陰性結果(IUCLID(2000))が得られている。
発がん性	分類できない	データなし。
生殖毒性	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	分類できない	データなし。
誤嚥有害性(吸引性呼吸器有害性)	分類できない	データなし。

**12. 環境影響情報**

**12.1 生態毒性**

**12.1.1 バッファーRBW(濃縮)**

生態毒性	内容
魚類に対する毒性	データなし
甲殻類に対する毒性	データなし
藻類に対する毒性	データなし

**12.1.2 グアニジン塩酸塩**

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない	データなし。
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない	データなし。
オゾン層への有害性	分類できない	データなし。

**12.2 残留性・分解性**

残留性	データなし
分解性	データなし

**12.3 生物蓄積性**

生物蓄積性	データなし
生物分解性	データなし

**12.4 土壌中の移動性**

吸着試験	データなし
浸出試験	データなし

**安全データシート(SDS 番号:SDSGA0018-3)**  
**GeneAll Ribospin™ vRD II:バッファーRBW**

Log Koc(土壌吸着係数)	データなし
-----------------	-------

**12.5 他の有害影響**

オゾン層への有害性	データなし
-----------	-------

**13. 廃棄上の注意**

製品及び残余廃棄物	内容物/容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに業務を委託して処理すること。
	廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。
	環境への放出を避けること。
汚染容器及び包装	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
	完全に空でない場合は、製品入り容器と同様に処分すること。
	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

**14. 輸送上の注意**

**14.1 国際規制**

国連番号 (UN Number)	輸送規制の対象ではない。
国連出荷正式名(国連出荷名) (UN Proper Shipping Name)	輸送規制の対象ではない。
国連分類 (輸送時の危険有害性クラス) (UN Transport Hazard Class)	輸送規制の対象ではない。
容器等級 (Packing Group)	輸送規制の対象ではない。
環境への危険性	環境上危険物として規制されていない。
ユーザー向け特別注意事項	ADR/RID(陸上規制)、ADN(内陸水路規制)、IMO/IMDG-Code(海上規制)、ICAO/IATA-DGR(航空規制)で規制された危険物ではない

**14.2 国内規制**

海上規制情報	船舶安全法の規定に従うこと。
航空規制情報	航空法の規定に従うこと。
陸上規制情報	毒物及び劇物取締法、消防法、高圧ガス保安法、道路法の規定に従うこと。

**14.3 MARPOL 73/78 付属書 II 及び IBC Code によるばら積み輸送される液体物質：本製品には該当しない。**

**15. 適用法令**

**15.1 グアニジン塩酸塩 (CAS 番号:50-01-1、濃度:70~80%)**

化審法	非該当
PRTR 法	非該当
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(令和 8 年 4 月施行予定) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(令和 8 年 4 月施行予定)
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
廃掃法	産業廃棄物
麻薬及び向精神薬取締法	非該当
覚醒剤取締法	非該当

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0018-3)  
GeneAll Ribospin™ vRD II:バッファーRBW

薬機法	非該当
カルタヘナ法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
化学兵器禁止法	非該当
大気汚染防止法	非該当
オゾン層保護法	非該当
悪臭防止法	非該当
ダイオキシン類対策特別措置法	非該当
水質汚濁防止法	非該当
下水道法	非該当
水道法	水質基準
海洋汚染防止法	非該当
航空法	非該当
船舶安全法	非該当
港則法	非該当
道路法	非該当
労働基準法	非該当
農薬取締法	非該当
土壌汚染対策法	非該当
水銀汚染防止法	非該当
地球温暖化対策推進法	非該当
フロン排出抑制法	非該当

## 16. その他の情報

弊社が販売する試薬類は、試験研究用途向けに限定して販売しております。製品を取り扱う前に取扱説明書等を熟読し、専門知識のある技術者、研究者がご使用ください。本 SDS 情報は、徹底的な調査及び/または研究によって得られたものであり、推奨は専門的判断の慎重な適用に基づいています。また包括的のみならず、ガイドとしてのみ使用されるべきものです。全ての物質及び混合物には、未知の危険性があるため注意して使用する必要があります。当社では、実際の方法、量、使用条件等を管理することができないため、本書に記載されている取扱いまたは製品との接触に起因する損害賠償責任は一切負いません。本 SDS の情報は、市場性や特定目的適合性の黙示の保証を含め、明示的にも黙示的にもいかなる保証をするものではなく、また品質を特定するものでもありません。

### 引用文献及び参照ホームページ等

- ・JIS Z 7252: GHS に基づく化学品の分類方法
- ・JIS Z 7253: GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
- ・化学物質規制・管理実務便覧(化学物質管理実務研究会編集、新日本法規出版株式会社出版)
- ・NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ・ezCRIC+ (日本ケミカルデータベース株式会社)

以上